

VIEW

C担務2名が「ヒューマンエラーの温床」?!

12月6日、大阪交番検査車両所は、朝の点呼で12月分の総点呼を行いました。志々場所長は全社員に対して訓辞を行い、12月2日より実施している屋根上作業体制の変更について「作業分担を明確にしつつ、運転台担当の臨時修繕能力を高めるため」とその目的を明らかにしました。さらに「従事する社員が多ければ多いほど、よい品質の車両が提供できるかという必ずしもそうではありません。そこには、他者に任せる。委ねる。思い込む等の要素が生まれ、ヒューマンエラーの温床になる」と屋根上担当のC担務を2名から1名に減らした理由を明らかにしました。しかし、この説明は問題の本質をそらすための説明で納得できるものではありません。

そもそも「作業分担の明確化」というなら、今までC担務2名で行っていた作業の区分をはっきりさせて、それぞれの分担を決め、後確認がしっかりできる体制にすればいいということではないでしょうか？ 相互チェックのない屋根上作業は多くの目でチェックしながら作業しなければならないはずです。一方、床下作業（箱作業）では班長、Gリーダーの指示で協力して作業を行っています。屋根上だけができないということはないはずです。ごまかしでしかありません。

作業の明確化＝責任の明確化！責任は社員に！

12月9日、朝の臨時総点呼で新幹線鉄道事業本部車両部検修課の岡部課長が年末年始輸送に向けての訓辞を行いました。その中で「12月から屋根上の点検作業の取り組みをやっていたら、より責任が明確化になった」とその目的が責任の明確化であったことを明らかにしました。このことは「パンタ舟体落事故」など事故が起こった場合、すべて社員の責任にするということです。これが「作業分担の明確化」の本当の目的です。何かあれば責任をとらせるという体制に変更したということです。

会社は、本質を隠し、何事もなかったように同じ時間で終了させようとしています。このことは、ヒューマン・エラーや作業ミスを生み、大事故を引き起こしかねません。

私たちは、ゆとりある作業と安心して働ける作業体制を求めていきます。